



広島城北高等学校サッカー部OB会
広島市東区戸坂城山町1-3 広島城北学園内 〒732-0015
電話 082-229-0111 FAX 082-220-2366



近況報告と
城北高校サッカー部の
復活を祈念して

元コーチ 岡光龍三

広島城北高校サッカー部OBの皆様、お久しぶりです。長らくご無沙汰をいたしておりますが、皆様にはお変わりもなく、お元気にて各方面でご活躍とのこと、大変うれしく思っております。

先日、宮本先生から電話があり、城北高校サッカー部OB会の会報誌への寄稿を依頼され、快く引き受けたものの、今や、日本国中が熱狂している、2002 FIFA WORLD CUP・KOREA・JAPANの開催中です。6月15日付の中国新聞の一面には『日本 決勝T進出』「森島・中田英 ゴール」という大見出しで、以下の解説がありました。サッカーの第17回ワールドカップ(W杯)で14日、日本はチェニジアに2-0で勝ち、決勝トーナメント進出の歴史的快挙を達成した。日本は一時リーグ日組を2勝1分けの無敗で乗り切り、堂々の1位で同リーグを突破した。共催国の韓国もポルトガルを1-0で破って、D組で1位となり「日本と一緒に16強入り」の目的を果たした。日本は18日に宮城での同トーナメント1回戦で、C組2位のトルコとベスト8進出を懸けて対戦する。とありました。

経済不振・国会議員の不始末・小泉内閣の構造改革の遅れ等々、日本国内では大きな問題点が山積みされている昨今、日本代表選手がやり遂げた仕事は、限りなく大きな好影響をもたらす波及効果を生み出すことでしょう。

そんな真つ最中で、一日中(練習時間以外)TV・新聞・雑誌に釘付けにされ、筆を執る時間もなく困惑している状態です。

サッカー部の思い出については、初代監督の田辺先生・二代目監督の井上先生・OBの皆様が寄稿されており、重複する部分が多いかと思えますので、私の近況をお知らせしながら、城北サッカー部の益々のご活躍を祈念していることを主として記述することと致します。

私は、一昨年の10月10日付で37半も勤務しておりますマツダ(株)【旧東洋工業(株)時代も含

め)を無事に定年退職致しました。

その年の12月20日に、左足下肢静脈瘤の手術をして、昨年の1月末にリハビリ中で近所を散歩していましたが、全日本大学の強化責任者も兼任している友人から、私の携帯へ電話が入り、広島経済大学サッカー部の指導・育成をしてくれないかとの依頼(その理由については



幾つかありましたが、ここでは省略致します。)でした。私も年を取りすぎており、今更、大学生を指導することが出来るだろうか、少し考えさせてくれということ、後日に返事をすることにした。

マツダ(株)勤務の晩年は、長年にわたって単身出向(韓国ソウルに3年半・広島県北庄原に7年)をしており、この間、子供たちの進学・結婚、母親の看病・死去等々、家内に随分と苦勞をかけたとの思いもあったので、少し休養してから、国内外の旅行にでも行こうと思っていた矢先の依頼であったため、迷いながらも家内に相談すると、貴方の健康維持のためにも引き受けたらということ、もう少し頑張ってみようかと決心致しました。

昨年は、コーチということで4月末に就任しましたが、5月初旬からいきなり広島県学生リーグと、その合間に開催される総理大臣杯の予選に突入。各大学チームの実力・自チームの部員の個性等、何も把握していない状況下でのスタートとなりましたが、県学生リーグは7年ぶり4回目の優勝。総理大臣杯はこの年、全タイ

トルを独占した福山大学に準々決勝で惜敗。夏に開催される天皇杯の県予選は、広島大学に惜敗。秋に開催される中国学生リーグは、初戦で福山大学と対戦し、5-3で勝利したものの、あとは格下のチームと引き分けたりして、最終的には3勝3分1敗の成績で、8チーム中の4位で、昨年度のシーズンを終えることになりました。

一昨年は、最下位で2部の優勝チームと入れ替え戦を行い、かろうじて1部残留という結果であった。広島経済大学としての危機意識もあつて、外部から指導者を招聘されたという経緯でもあります。

昨年の成績が評価されたのか、今年の2月から同校サッカー部の監督を要請され、同月中旬、監督就任の記事が中国新聞に掲載されました。早速、城北高校の宮本先生が挨拶に来られ、十数年ぶりに再会いたしました。

宮本先生は、私が、城北高校サッカー部のコーチをしていた時の末期の選手で、先生が2年生の時に、私がソウルへ海外出向致しました関係で、この時をもって、長年にわたり指導してきた城北高校サッカー部を去ることになりましたが、その後も、同校の活躍を気にはしておりました。何年ぶりかで再会し昔話に花を咲かせた中で、練習試合をやりましょうということになり、3月と5月にAチーム・Bチームとも2試合づつ行いました。最初のゲームは、相手が大学生ということもあつてか、遠慮がちで思ったような試合運びができなかったようですが、

次の試合は、遠慮もなくなりリラックスした、普段通りの試合ができるようになっていて、このチームは鍛えようによっては、今でも、広島県の高校でベスト4には入れる潜在能力をもっているチームであるという感触を得ました。

県総体では、予選を勝ち抜き2年連続ベスト16にはいりましたが、本大会のトーナメント戦では組み合わせに恵まれず、2回戦で強豪の沼田高校と2-2のPK負けでしたが、2-1でリードしながら、ロスタイムで追いつかれたと聞いております。誠に残念な悔いの残るゲームであつたかと思えます。

先ほど、潜在能力を持ったチームであると評したのは、広経大として、今年も多くは高校チームと練習試合をしてきた経験に基づいております。皆実・観音・沼田・美鈴が丘・基町・山陽・瀬戸内・修道等々と練習試合をしてきた結果、今年の城北高校は、少し頑張れば上位進出は夢ではないと感じました。

この大会で、3年生は退部することでしたが、進学校の宿命か、昔も今も同じことの繰り返しをしているように思います。高校生段階では、夏合宿を終えた頃に急激に力(体力的・精神的にも大きく成長する時期)をつけてくるだけに、ここでプランクの期間をつくってしまつと、その後の大学・社会人チームで再びサッカーをしたとしても、それが大きなダメージとして現れてきます。誠に残念でなりません。城北高校サッカー部を、陰ながら応援しておりますので、復活を目指して頑張ってください。

城北高校サッカー部OBの皆さん
こんにちは！！

皆様のお陰で年々「初蹴り」に参加してくれるOBの人数も増えてきました。やはり、現役を支える「陰の主役はOBの皆さんです」。今後、一人一人が顔を見せない同級生へ「声かけ」をどんどんしてもらい、社会人となった皆さんに少しでもリラックスできる場所・本音で話ができる場所「最上段」の和を広げていきたいと思えます。さて、我々の時代では想像できなかった「ワールドカップ」がこの日本で開催されています。私もですが、多分皆さんも仕事

OB会長 吉川英司

「サッカーは世界共通！」

33回生 中正 成則

ワールドカップ上陸!!!みなさん、こんにちは。毎日がサッカーづくしの生活を送っていることと思います。しかし、私はタイムイングが悪いことに今春から働き出したフレッシュユマンです。まずは、今回私のような者に筆を取る機会を与えてくださった宮本先生にお礼を申し上げます。

「さあ、何を書こうか!？」と考えたあげく、フランス留学でサッカーを通して感じたことを書くことにします。単に技術的なものだけでなく、精神的な部分、そしてコミュニケーションの手段として、などなど多くのことを経験してきました。

週末になると、どこからともなくサッカー人が大学のグラウンドに集まってくる。そしてその場の雰囲気や自然とチームに分かれて、キックオフ!試合が始まると日本人はみんなNAKATAと呼ばれていました。NAKATAが有名になっただけでなく、いっただいなんと呼ばれていたことやら...。毎週サッカーのおかげでアフリカ系、アラブ系、ラテン系と多くの民族と交流でき、言葉の代わりにサッカーという共通言語がお互いの距離を縮めてくれました。「サッカーは世界共通!」ということを感じました。

そして私が一番ナシヨナリズムに目覚めたのは、未だに忘れられないサンドニスタジアムの屈辱です。日本VSフランス、みなさんは覚えていらっしゃるでしょうか?その試合のチケットをフランス人の友達にとってもらったために、私の周りにはフランス人ばかり!当然日本代表のユニホームに腕を通して観戦。しかしご存知のとおり試合はポロポロ。しかも点が入るたびに、私の前に座っている子供たちがこちらに振り向くではありませんか。初めの一点目、二点目あたりは「どうだっ!」という感じで、誇らしげにこつちを見ていたのが、

三点、四点、そして五点目が入ったころには「かわいそうに...」といわんばかりの同情した雰囲気。あれはもう耐えられない。そして最後には「おーい、日本代表はいったいどこへ行ったんだ?」という歌がスタジアム内を包み込む。中途半端に言っている意味がわかるだけに、悔しい!はがゆい!あの瞬間「いつの日か、きつと...」という気持ちで強く湧き出てきた。今回のワールドカップでフランスは予選敗退。みなさんは非常に残念に思っているかもしれませんが、個人的にはハッピーです。しかし次回ワールドカップという大舞台で、直接対決の結果フランスを退けてほしいものです。

あまり城北サッカー部と直接的な関係のない文章になってしまいましたが、サッカーという言葉を使わせてもらったあの最上段。あの場があったか

らこそ、このような経験ができたのだと思っております。ありがとうございます。本当にサッカーは楽しいな!



栄光のアツズーリ

第36期卒業生 海野裕次郎

都内のあるアパート、玄関を入り、台所を抜け、6畳一間の殺風景な部屋。その部屋の左奥の壁に場違いな程さわやかな写真がある。それは広島県下有数の名門、広島城北高校のグラウンドで撮られたもので、そこにいる若者はみな空色のユニフォームを身にまとい、こちらに向かって強い視線を送っている。その中央に写っているのは間違いなく高校時代の自分である。その写真の自分を見てみる。引き締まった腕、脚、黒い短髪。今ここにいる自分を鏡に映して見てみる。無常にも共通点が見当たらない。あるとすれば、いくら紫外線を浴びても小麦色になることのない自慢の美肌ぐらいか。

なによりも違うモノがある。それは眼だ。あの頃なぜこれほど強い意志を宿した眼をしていたのだろう。

城北サッカー部に入って得たものの中で何よりも大きなものといえば宮本監督が持つ貪欲なまでの向学心である。みなさんご存知の通り宮本監督は不器用なヒトだ。しかし、宮本監督はその不器用な分、他の人の何倍もの努力をする。どんな新しいことにもまずチャレンジをする(練習方法など私の代は毎週変わってそりやもう大変だった。)そうして宮本監督はおごることなく日々何かを手に入れていく。あの頃はここまではっきりそのすごさを理解することは出来なかった。それでもやはり体では「それ」を感じていたのだろう、いつも気が付けば最上段グラウンドへと足を向かわせていた。こうして宮本監督のもとにはどんどんと宮本監督を慕う人が増えていく。その最たる例がこの城北サッカー部OB会ではないだろうか。

私は今年の初蹴りに初めてOBとして参加させていた。昼間サッカーをした後の夜の食事会、現役時代の話を花を咲かせている皆さんの嬉

嬉とした表情に、そして面識の全くない歳の離れたOB同士がいわゆる「キユボン」ネタで盛り上がった様子に、不思議と胸がいっぱいになった。これなのだ、これが城北サッカー部の強みなのだ。最近現役の選手たちの朗報が東京まで聞こえてくる。あの空色のユニフォームが元気に暴れているのだと思うと、こんなに遠くにいるもゾクゾクしてくる。現役の頃はOBが残っていたものなんて分らなかったし、そんなものは自分たちのプレーには関係ないと思っていた。だが確実にあのユニフォームはその思いを引き継いでいたのだ。その思いはまたユニフォームに袖を通して自分にも伝わった。それがあの写真で見た眼だったのだ。

QPONのひとり言

第2次黄金時代到来?

あんなに、遠かった県大会に二年連続で出場でき、おまけに、あの沼田といいGAMEができました。新チームもすばらしいチームなので、今後も期待してください。しかし、勝利だけを求めるのではなく、原点に帰り、新チームのテーマは、ハートフル・フットボール!(ハートのあるサッカーをしよう!)

広島城北高校サッカー部 宮本 誠 (19回生)

携帯電話 090-2296-5967  
E-mail qpon@do.enjoy.ne.jp  
fantasista-qpon@docomo.ne.jp

近況報告

15年ぶりの県大会出場を果たした昨年のチームから代が変わり、広島城北高校サッカー部の新たな歴史のスタートとなる今年のチームの闘いは、9月の選手権大会において、第一次トーナメント決勝で基町高校にPK戦で敗れ、最低限の目標だった二次リーグ戦に進出できないという、苦い結果からスタートしました。

広島県高校新人大会

第一戦 2002. 1. 13 広島城北 5-0 千代田

若干緊張気味のスタートであったが、開始早々、コーナーキックから谷口選手のヘディングシュートが決まって波に乗り、前半で3点のリードを奪うことができた。後半も加点し、危なげなくゲームをコントロールしたが、相手の速攻に対するディフェンスにやや不安な面もみせた。

第二戦 2002. 1. 20 広島城北 3-3 国泰寺 (PK 2-4)

ここ何年か苦渋を舐めさせられている国泰寺高校に対し、二度も先行される苦しいゲーム展開を強いられたが、選手はあきらめることなくファイトして二度とも同点に追いつき、後半には豊田選手のゴールで逆転に成功した。しかし前後半それぞれの立ち上がりで失点したことによる選手への精神的・身体的負担は思った以上に大きく、足が止まった後半18分に同点ゴールを浴びてしまった。

PK戦では4人が決めた国泰寺に対し、城北は2人失敗して、残念な結果で大会を終えた。

広島県高校総体 広島地区予選

第一戦 2002. 4. 21 広島城北 12-0 熊野

ディフェンス時のポジショニングにやや不安があったものの、坂本(ピグ)選手を中心とした攻撃陣が好調で、今大会の今後に大きな期待感を抱かせる試合だった。

第二戦 2002. 4. 27 広島城北 9-0 西高校

第三戦 2002. 4. 28 広島城北 0-0 国際学院 (PK 4-2)

県大会出場をかけた一戦は、予想どおり緊迫した好ゲームとなった。広島城北の生命線であるプレスディフェンスは相手にかかりのプレッシャーを与えたが、国際学院もシンプルなパス回しからDFラインの裏を鋭く突き、何度かひやりとさせられる場面もあった。同点のまま試合終了し、選手権・新人戦と敗れているPK合戦に突入したが、3度目の正直か、4人までの全員がゴールを決めて国際学院を振り切り、二年連続の県大会出場を果たした。

広島県高校総体 広島県大会

第一回戦 2002. 6. 1 広島城北 5-0 三原

試合開始から多くのチャンスを奪いながらなかなか得点できなかったが、前半20分の小島選手のゴールで落ち着きを取り戻し、その後は着実に加点した。

第二回戦 2002. 6. 2 広島城北 2-2 沼田 (PK 1-3)

広島県を代表する強豪校に対し、前半開始早々に得点するという、願ってもない展開となった。選手は気後れすることなくすばらしいファイトを見せ、やや押し気味ではあったが、惜しいチャンスも何度か作った。後半22分に同点に追いつかれたが、その後はむしろ押し気味に闘うことができた。そして突入した延長後半、中曾選手が倒されて得たPKを坂本選手が冷静に決めた後は、時間との戦いになったが、試合終了間際、コーナーキックから同点に追いつかれた。

気持ちを切り替えて臨んだPK戦では、運が味方せず、またもベスト8の壁に跳ね返された。しかしこのゲームは、広島城北高校サッカー部に非常に大事な経験を与えてくれた。

新主将に高哲郎選手を指名し、新チームがスタートしました。二年連続で県大会に進み、ともにベスト16という成績からも、サッカー部の確実な進歩は自他ともに認めるところですが、逆に「そこから先」を目指すためにすべき事や課題は山積みです。しかし、春先の九州遠征で鹿児島実業高校と対戦したり、広島経済大学サッカー部に胸を貸して頂いたりという経験は、チームにとって非常に大きな財産となっており、沼田高校と互角以上の闘いができた要因だと思います。

4月から30回生の菊一滋君が、トレーナーとしてスタッフ入りしました。また、保護者会、OB会と、サッカー部を取り巻く環境はますます充実しています。選手はみなさんの応援や期待を感じながら、日々最上段で練習に取り組んでいます。チームがもうひとつ上のランクにあがる、近い将来、本当に近い将来それは間違いなく実現するでしょう。

広島城北高校サッカー部コーチ 岩井 竜彦 (24回生)  
電話 (082) 280-3025  
携帯 090-4692-6475  
tatsu101@dream.com  
tatsu.gun-cha@docomo.ne.jp

※ご家族のみなさんへ:ご本人が、ご入学・ご就職・ご結婚などで不在の場合は、お手数ですが、ご本人まで、ご連絡下さい。